

第11回 日本末梢神経研究会 プログラム

〈特別講演〉

筋肉移植による陳旧性顔面神経麻痺

〈主 題〉

- I 自律神経性ニューロパチー
- II 糖尿病性ニューロパチー
- III 末梢神経機能脱落に対する各種の再建術

〈シンポジウム〉

Crow-Fukase症候群

〈トピックス〉

末梢神経脱落に対する再建術後の機能転換

〈産業医学〉

職業性総腓骨神経麻痺

会 長：祖父江 逸 郎

学術研究会会長：桜 井 実

日 時：2000年8月26日(土) 9:00～17:00

場 所：斎藤報恩会館

〒980-0014 仙台市青葉区本町2-20-2

TEL. 022-262-5506

第11回学術研究会事務局：東北大学医学部整形外科学教室

〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1

TEL. 022-717-7245 FAX. 022-717-7248

プログラム

開会の辞

[9:00～9:02]

学術研究会会長 東北中央病院 東北大学整形外科 桜井 実

主題Ⅰ：自律神経性・代謝性ニューロパチー

[9:02～9:34]

座長：慈恵医大神経内科 井上 聖啓
横浜市大神経内科 長谷川 修

1. インターフェロン治療中に発症した自律神経ニューロパチーの2例：免疫学的検討
東京医科歯科大神経内科 山脇 正永 ほか
2. 臭覚・味覚低下を伴った hereditary sensory and autonomic neuropathy (HSAN) の一家系
名古屋大神経内科 小池 春樹 ほか
3. ビタミンB₁欠乏性ニューロパチーの臨床病理学的特徴
九州大神経内科 栄 信孝 ほか
4. ギラン・バレー症候群と膜性腎症によるネフローゼ症候群を併発した1例
埼玉医大神経内科 柴木 謙次 ほか

主題Ⅱ：糖尿病性ニューロパチー

[9:34～10:06]

座長：弘前大病理 八木橋操六
近畿大神経内科 高橋 光雄

1. 糖尿病ラットにおける神経挫滅後の知覚神経細胞の apoptosis 誘導と軸索再生障害
滋賀医科大学第三内科 小川 秀郎 ほか
2. インスリンが持つ末梢神経内低酸素効果：神経炎の発生機序
近畿大神経内科 木原 幹洋 ほか
3. 糖尿病性ニューロパチーの評価に適した神経伝導検査項目
横浜市大 長谷川 修 ほか
4. ヒトアルドース還元酵素発現トランスジェニックマウスによる糖尿病性ニューロパチー
弘前大病理 山岸晋一朗 ほか

—— 休憩 [10:06～10:15] ——

シンポジウム

[10:15～12:00]

Crow-Fukase 症候群

司会：武田病院神経内科 西谷 裕
産業医大神経内科 大西 晃生

1. 臨床と病理 武田病院神経内科 西谷 裕
2. 病理学的側面 名古屋大神経内科 祖父江 元
3. 病態・病院とVEGF 鹿児島大第三内科 有村 公良
4. Angiography とVEGF 金沢大生化学 山本 博
5. 治療と予防 千葉大神経内科 桑原 聡

指定演題

Crow-Fukase 症候群を呈した大腿骨形質細胞腫の広範切除例

札幌医大整形 大坪 英則 ほか

—— 総合討議 [11:35～12:00] ——

昼食休み

[12:00～13:00]

世話人会開催

研究会からのお知らせ

[13:00～13:15]

会長 愛知医大 祖父江逸郎

特別講演

[13:15～14:00]

座長：東北大整形 桜井 実

筋肉移植による陳旧性顔面神経麻痺の治療

東北大学大学院機能回復外科学分野（形成外科）教授 山田 敦

トピックス

[14:00～15:15]

座長：立川共済病院 矢部 裕

末梢神経脱落に対する再建術後の機能転換

1. 肋間神経移植術による腕神経叢損傷の治療

浜松医大整形外科 長野 昭

2. 筋肉移植術による運動機能の再建

——腕神経叢全型麻痺に対する手指物体把持機能再建——

小郡第一総合病院整形外科 土井 一輝

交差過誤神経支配の解消を目的とした分娩麻痺に対する肋間神経移行術

指定発言：慶応大整形外科 高山真一郎 ほか

——休憩 [15:15～15:25]——

主題Ⅲ：末梢神経脱落に対する各種の再建術

[15:25～15:57]

座長：京都府立大整形 平沢 泰介

宮城野病院整形 宮坂 芳典

1. 手根管症候群患者における手根管内圧と正中神経内圧の比較検討

日赤医療センター整形 奥津 一郎 ほか

2. 筋萎縮のある手根管症候群には指対立再建術は必要か

駿河台日大整形 長岡 正宏 ほか

3. 重度肘部管症候群の第1骨間筋麻痺に対する移行筋腱選択の検討

北里大東病院整形 二見 俊郎

4. 長胸神経麻痺および副神経麻痺による翼状肩甲骨の検討

九大整形 和田 晃房 ほか

末梢神経に関する一般公募演題

[15:57～16:27]

座長：日大整形 佐藤 勤也

北里大整形 二見 俊郎

1. くびれによる正中神経麻痺の運動麻痺分布の種々相

筑波大整形 原 友紀 ほか

2. 腕神経叢に発生した神経鞘腫

山形大整形 鳴瀬 卓爾 ほか

3. 末梢標的組織の慢性炎症病変に対する抗炎症薬が神経回復に与える影響について

防衛医大整形 加藤 直樹 ほか

4. RT-PCR/HPLC法を用いた骨格筋および皮膚中の神経栄養因子の定量

慶応大整形 大串 一彦 ほか

産業医学関連演題

[16:27～16:57]

座長：名大衛生 竹内 康浩

職業性総腓骨神経麻痺

(株)マツダ健康管理センター 舟橋 敦

閉会の辞

[16:57～17:00]

学術研究会会長 公立学校共済組合東北中央病院 桜井 実

LETTERS TO THE EDITOR

第11回日本末梢神経研究会を終えて

〔The Eleventh Annual Meeting of Japanese Peripheral Nerve Society.〕

祖父江逸郎

(日本末梢神経研究会会長)

〔Itsuro SOBUE, M.D. (Japanese Peripheral Nerve Society) :
愛知医科大学(〒480-1195 愛知県愛知郡長久手町大字岩作字
雁又21) ; Aichi Medical University, Aichi〕

2000年9月18日

拝啓

第11回日本末梢神経研究会(会長:祖父江逸郎)が、桜井 実(公立学校共済組合・東北中央病院)学術研究会会長のもとに、2000年8月26日(土)、仙台市斎藤報恩会館で行われ、盛会裡に終了しました。本研究会の発足趣意にもありますように、「学際的で自由な研究発表と討論のための適切な場を創造すること」を踏まえて下記に述べますような多彩な末梢神経疾患に関する発表が行われました。

主題I:「自律神経性・代謝性ニューロパチー」のセッションでは、東京医科歯科大学神経内科の山脇正永先生が、「インターフェロン治療中に発症した自律神経ニューロパチーの2例:免疫学的検討」を、九州大学神経内科の栄 信孝先生が、「嗅覚・味覚低下を伴ったhereditary sensory and autonomic neuropathy (HSAN) の一家系」を、名古屋大学神経内科の小池春樹先生が、「ビタミンB₁欠乏性ニューロパチーの臨床病理学的特徴」を、埼玉医科大学神経内科の柴木謙次先生が、「ギラン・バレー症候群と膜性腎症によるネフローゼ症候群を併発した1例」を発表されました。このセッションでは、自律神経性・代謝性ニューロパチーの多様性が注目されました。

主題II:「糖尿病性ニューロパチー」のセッションでは、滋賀医科大学第三内科の小河秀郎先生が、「糖尿病ラットにおける神経挫滅後の知覚神経細胞のapoptosis誘導と軸索再生障害」を、近畿大学神経内科の木原幹洋先生が、「インスリンが持つ末梢神経内低酸素効果:神経炎の発症機序」

を、横浜市立大学神経内科の長谷川 修先生が、「糖尿病性ニューロパチーの評価に適した神経伝導検査項目」を、弘前大学病理学の山岸晋一郎先生が、「ヒトアルドース還元酵素発現トランスジェニックマウスによる糖尿病性ニューロパチーの解析」を発表されました。このセッションでは、まだ未解決の糖尿病性ニューロパチーの病因に対する多面的なアプローチが注目されました。

シンポジウム:「Crow-Fukase 症候群」では、武田病院神経内科の西谷 裕先生が、「臨床と病態」を、名古屋大学神経内科の祖父江 元先生が、「病理学的側面」を、鹿児島大学第三内科の有村公良先生が、「病態・病因とVEGF」を、金沢大学生化学の山本 博先生が、「AngiopathyとVEGF」を、千葉大学神経内科の桑原 聡先生が、「治療と予後」を、指定演題として、札幌医科大学整形外科の大坪英則先生が、「Crow-Fukase 症候群を呈した大腿骨形質細胞腫の広範切除例」を発表されました。Crow-Fukase 症候群におけるVEGFの高値が近年注目されていますが、VEGFがこの症候群の症候発現にどのように関連するかについて活発な討論が行われました。Crow-Fukase症候群がニューロパチーのみならず全身性疾患であることが確認されました。VEGFの値は病態・病勢をよく反映し、本症候群の診断と治療効果の評価に有用と判断されました。しかし、VEGFがニューロパチーの原因であるか否かは、今後更に検討される問題であると考えられました。

特別講演では、東北大学形成外科の山田 敦先生が、「筋肉移植による陳旧性顔面神経麻痺の治療」を論じられました。治療困難な陳旧性顔面

神経麻痺の治療の現状と今後の問題が明らかにされました。

トピックス：「末梢神経脱落に対する再建術後の機能転換」では、浜松医科大学整形外科の長野 昭先生が、「肋間神経移植術による腕神経叢損傷の治療」を、小郡第一総合病院整形外科の土井一輝先生が、「筋肉移植術による運動機能の再建—腕神経損傷全型麻痺に対する手指物体把持機能再建—」を、指定発言として、慶應大学整形外科の高山真一郎先生が、「交差過誤神経支配の解消を目的とした分娩麻痺に対する肋間神経移行術」を発表されました。末梢神経脱落に対する再建術後の機能転換におけるリハビリテーションの重要性と腕神経損傷全型麻痺例における手指物体把持機能再建の症例提示が注目されました。

主題 III：「末梢神経脱落に対する各種の再建術」のセッションでは、日赤医療センター整形外科の奥津一郎先生が、「手根管症候群患者における手根管内圧と正中神経内圧の比較検討」を、駿河台日本大学整形外科の長岡正宏先生が、「筋萎縮のある手根管症候群に母指対立再建術は必要か」を、北里大学東病院整形外科の二見俊郎先生が、「重度肘部管症候群の第 1 背側骨間筋麻痺に対する移行筋腱選択の検討」を、九州大学整形外科の和田晃房先生が、「長胸神経麻痺および副神経麻痺による翼状肩甲骨症例の検討」を発表されました。このセッションでは、おのおのの末梢神経の脱落に応じた保存的治療および再建術の施行

の重要性が明らかにされました。

末梢神経に関する一般公募演題のセッションでは、筑波大学整形外科の原 友紀先生が、「くびれによる正中神経麻痺の運動麻痺分布の種々相」を、山形大学整形外科の鳴瀬卓爾先生が、「腕神経叢に発生した神経鞘腫」を、防衛医科大学校整形外科の加藤直樹先生が、「末梢標的組織の慢性炎症病変に対する抗炎症薬が神経回復に与える影響について」を、慶應大学整形外科の大串一彦先生が、「RT-PCR/HPLC法を用いた骨格筋および皮膚中の神経栄養因子の定量」を発表されました。

産業医学関連演題では、(株)マツダ健康管理センターの船橋 敦先生が、「職業性総腓骨神経麻痺」を論じられました。自動車組立ラインの作業従事者の職業性総腓骨神経麻痺の現状が明らかにされ、発症要因および予防方法の実施の現状が詳細に検討されました。産業医の努力により、この総腓骨神経麻痺は予防可能であるとの印象を強く受けました。

次回、第12回日本末梢神経研究会は、日本末梢神経学会(高橋光雄学術集會会長)として、2001年8月25日(土)にホテルグランヴィア大阪で行われる予定です。公募テーマのもとに演題募集も行われますので奮って御応募下さいませようお願い致します。併せて一人でも多くの方々の御参加と活発な御討議を期待致しております。

敬 具

* * *